

② タイヤから火が出ているとの通報により、非常脱出

概要：B航空所属ボーイング式747-400型機は、平成8年9月13日、新東京国際空港（現・成田国際空港）からフランクフルト国際空港へ向けての飛行のため、離陸滑走を開始したが、No.4エンジンに不具合が発生し離陸を中止した。

その後、同機は滑走路から誘導路に入り停止したが、管制官よりタイヤから火が出ているとの通報を受け、乗員20名及び乗客333名が脱出スライドを使用して非常脱出を行った。

脱出の際、乗客3名が重傷、19名が軽傷を負った。

非常脱出までの経過

13時11分ごろ

同機は管制官からの離陸許可があり、滑走路16に入り離陸滑走を開始した

離陸滑走中、同機のエンジンに不具合が発生し、離陸を中止した

13時13分ごろ

同機は管制官の指示に従い滑走路を出て、A誘導路上で停止した

13時16分ごろ

管制官が同機に対し「タイヤから火が出ている模様です」と通報した

13時16分30秒ごろ

機長は客室乗務員・乗客に脱出の指示を行った

重傷者の内訳と状況

- 女性 56歳 第12胸椎粉碎骨折 脱出口：R2
滑り降りた時、自分を支えてくれる人がいなかったため、腰から地面にたたきつけられ、自力で移動できる状態ではなかった
- 女性 62歳 第1腰椎圧迫骨折 脱出口：R4
降りた時、地上で援助してくれる人もなく、腰から地面にたたきつけられたような感じでそのまま動けなくなってしまった
- 女性 69歳 腰部打撲 脱出口：L4
地上に援助してくれる人もなく、まともに腰から落ちた感じで、自分では動けない状態であった

なお、軽傷者19名は主に打撲、捻挫、擦過傷等であった

脱出の状況

- 脱出に要した時間はおよそ2分であった
- 使用したスライド数は12箇所中7箇所、アップ・デッキのスライドは乗客の安全を考慮して、他は燃料漏れ等により使用しなかった
- 客室乗務員が2名配置されている脱出口については、1名が地上に降り、脱出スライドで降りてくる乗客を援助した
- その他の出口については、客室乗務員が乗客に地上に降りたら援助するよう頼んだため、一時的には協力が得られたケースもあったが、継続した援助が得られなかったケースもあった
- 手荷物を持って脱出口に向かう乗客が多く見られ、荷物を持たないよう指示したが、それでも荷物を持って脱出する乗客がいた

参考事項

○運輸省（現・国土交通省）航空局は、平成8年10月に有識者、航空会社、旅行業界及び航空局が参画する「航空機の非常脱出誘導に関わる研究会」を財団法人（現・公益財団法人）航空輸送技術研究センターに設置し、航空機の非常脱出における乗客の誘導方法について研究を行った。同研究会は次の内容を中心とする報告をとりまとめた。

(1)平成10年4月1日から非常口座席着席者に非常脱出時の援助者として協力を求める

(2)安全のしおり・ビデオの改訂

(3)旅行会社等の添乗員の非常脱出に関わる研修

(4)安全のしおり・ビデオ内容の解説の周知

運輸省航空局は、この報告を受け航空旅客に周知すべき安全情報の充実を図ること及び非常脱出時の援助者を確保する体制を整えることを内容とする通達を定期航空運送事業者及び国際不定期航空運送事業者に対して行った。

○B航空会社では、通達に基づき、安全情報を充実させるとともに、平成10年4月1日から非常口座席着席者に非常脱出時の援助者として協力を求める体制を整えた。

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。

(平成10(1998)年5月29日公表)

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/aircraft/rep-acci/98-3-JA8902.pdf>